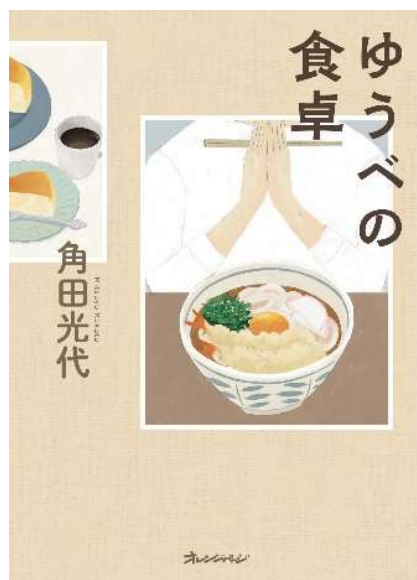


～発売前重版が決定！～
雑誌『オレンジページ』連載の短編小説が単行本化
角田光代『ゆうべの食卓』

食やライフスタイルにまつわる本を出版してきた株式会社オレンジページ（東京都港区）は、直木賞作家・角田光代さんの短編集『ゆうべの食卓』を 2 月 15 日（水）に発売します。さまざまな人生のひとコマを「食卓」というキーワードで紡いだ、角田さん待望の短編集です。



『ゆうべの食卓』（角田光代）

ひとりの、二人の、家族の、ささやかであたたかい 11 の食卓の記憶

人気作家・角田光代さんによる短編小説の連載「ゆうべの食卓」が雑誌『オレンジページ』で始まったのは 2020 年 6 月。月 2 回発行に合わせてストーリーを上下に分け、3 か月おなじ登場人物で進行し、時に視点を替えて展開する形式の連載でした。掲載号で特集した季節の食材や調理法が作中に使われているのも、たのしい仕掛けのひとつ。小説と雑誌がリンクする連載誌面ならではの試みでした。

単行本化にあたっては新たに書き下ろしの 1 章を加え、登場人物ごとに 3 章からなる 11 の短編にまとめました。新型コロナに翻弄されながら離婚を決意する女性、恋人にふられたのをきっかけに料理に目覚めるサラリーマン、実家を売却することになったきょうだいなど、異なった境遇の主人公たちが、それぞれ調え囲む食卓の風景を通じて、食事をたのしむことのかけがえのなさが鮮やかに描き出されます。

「食いたい料理は腹を満たす、
作りたい料理は心を満たす」

～本書「ようこそ料理界へ(料理界、それすなわち……)」の章より～



角田光代(かくた・みつよ)

1967年神奈川県生まれ。90年『幸福な遊戯』で海燕新人文芸賞、2003年『空中庭園』で婦人公論文芸賞、05年『対岸の彼女』で直木賞、07年『八日目の蟬』で中央公論文芸賞、12年『紙の月』で柴田錬三郎賞、『かなたの子』で泉鏡花文学賞、14年『私のなかの彼女』で河合隼雄物語賞、21年『源氏物語』(全3巻)訳で読売文学賞(研究・翻訳賞)を受賞。『タラント』(中央公論新社)、『晴れの日散歩』(小社)ほか、著書多数。

角田光代さん(撮影／伊藤徹也)

『ゆうべの食卓』(角田光代)

2023年2月15日(水)発売 1650円(税込)

四六判、アジロ綴じ、総ページ 256 ページ

<https://www.orangepage.net/books/1677>

※本書は『オレンジページ』2020年7月2日号～2023年2月17日号に掲載された「ゆうべの食卓」に、
新たな原稿を加え、再構成したものです。

【目次】

明日の家族／パパ飯ママ飯／グラタンバトン／それぞれの夢／
はじめての引っ越し／充足のすきま／彼女のレシピブック／
ようこそ料理界へ／だいじなのは基本の調味料／私の無敵な妹／
私たちのちいさな歴史／あとがき



イラスト／イオク サツキ

<このリリースに関するお問い合わせ先>

〒108-0073 東京都港区三田 1-4-28 三田国際ビル 16F 株式会社オレンジページ

広報担当 雫石 press@orangepage.co.jp

【2/2】